

4. 水族館記録 2005 年

1. 研究・教育

- 1月13日 西田宏記教授（大阪大学大学院理学研究科）と真壁和裕教授（徳島大学総合科学部）が、大型実験水槽（第3水槽室）を利用して研究用マボヤ600個体の畜養を始めた。その後数度、回収に訪れ、4月12日に終了・撤収した。
- 1月18日 研究用バフンウニ20個体を松原未央子院生（筑波大学大学院生命環境科学研究科和田研究室）に発送した。前夜、番所崎で採集しておいたもの。
- 3月22日 紀本電子工業(株)（白山義久教授との連携）が、第3水槽棟作業室に炭酸ガス計測機器一基を追加した。
- 3月23日 京都大学理学部生物系臨海実習Ⅱ部学生(11名)・公開実習生（7名）の夜間見学を指導した。
- 4月15日 インターラボ（京都大学理学研究科生物学専攻学生M1、43名）の見学を指導した。
- 5月 4日 京都大学ポケゼミ（新入生9名）の見学を指導した。
- 6月 5日 放送大学京都学習センター公開講座臨海実習生(18名)の見学を指導した。
- 6月 7日 奈良教育大学教育学部臨海実習生(14名)の見学を指導した。
- 6月13日-17日 北野裕子4回生（奈良女子大学理学部生物学科）の博物館実習を行った。
- 6月20日 大阪教育大学教育学部臨海実習生(18名)の見学を指導した。
- 6月30日 白山義久教授・興田喜久男・太田 満・山本泰司技術職員が、ムラサキウニに対する炭酸ガスの影響を調べる実験（301号水槽で展示）を終了した。
- 7月 5日 大阪市立大学理学部臨海実習生(11名)の見学を指導した。
- 7月11日 深見裕伸助手が、第3水槽棟屋上培養温室の水槽設備を利用して、イシサンゴ類の産卵調査を開始した。
- 7月27日 白山義久教授、興田喜久男・太田 満・山本泰司技術職員が、サザエに対する炭酸ガスの影響を調べる実験（301号水槽で展示）を開始した。
- 7月29日 滋賀県立膳所高等学校第36回生物実習(生徒15名、教諭3名)の見学を指導した。
- 8月 3日 兵庫県立尼崎小田高等学校サイエンスリサーチ科臨海実習(生徒6名、教諭1名)の見学を指導した。
- 9月5日・8日-12日 浅井香奈絵4回生（愛媛大学理学部生物地球圏科学科）の博物館実習を行った。
- 9月 6日 大阪大学理学部生物学臨海実習生(16名)の見学を指導した。
- 10月16日 放送大学京都学習センター公開講座臨海実習生(20名)の見学を指導した。
- 10月16日 立命館宇治高等学校SPP研究者招待講座臨海実習（生徒27名、教諭3名）の見学を指導した。
- 10月28日 和歌山県立田辺高等学校生物部海洋生物実習（生徒21名、教諭4名）の見学を指導した。
- 10月24日 白浜町立白浜中学校の和歌山県キャリア教育実践プロジェクト生徒5名の見学と給餌体験を指導した。

2. 普及（報道関係は放送および掲載分のみ）

- 1月 9日 ソフトバンクパブリッシング（株）が、水族館ガイドを出版のため取

材した。

- 1月10日 紀伊民報(夕刊新聞)が、冬休み特別イベント「解説ツアー」について取材した(1月14日付け)。
- 2月21日 紀伊民報が、餌の種類や給餌時刻について取材した(2月25日付け)。
- 3月15日 紀伊民報が、春休み特別イベント「解説ツアー」について取材した(3月23日付け)。
- 3月23日 紀伊民報が、ツボダイを取材した(3月26日付け)。この魚(全長7cm)は、3月19日、兵庫県立姫路飾西高校臨海実習生が番所崎のタイドプールで採集し、302号水槽に展示した。活けヌマエビを食ったが、アジ肉・オキアミ・アミなどの生餌を摂らないまま4月20日に死亡した。
- 3月25日 紀伊民報に、春休み特別イベント「解説ツアー」の広告を掲載した。
- 3月25日-4月7日 春休み特別イベント「解説ツアー」を教員5名と技術職員2名で実施した。バックヤードを案内する「裏側めぐり」(10:40~11:10、定員10名)と展示水槽を案内する「水槽めぐり」(11:15~12:00、定員20名)の二本立てで行い、計238人が参加した。
- 4月14日 紀伊民報に、春休み特別イベント「解説ツアー」の集計に関する記事が掲載された。
- 6月 1日 水族館開設75周年記念イベントとして写真展「75年の歩み」を、第3水槽室東側壁面に解説付き写真パネル30枚を掲示して開始した(2006年1月9日まで)。また紀伊民報に本件の広告を掲載した。
- 6月 4日 紀伊民報が、上記写真展について取材した(6月11日付け)。
- 6月20日 白浜ビーチステーション(FMラジオ局)が、上記写真展について取材・放送した。
- 6月30日 白浜町立富田小学校3年生12名、4年生15名、教諭4名を、バックヤードに案内、解説した。
- 7月17日 歩む会一行(14名)を案内・解説した。
- 7月21日-8月31日 夏休み特別イベント「解説ツアー」(土・日曜、8月12日~16日を除く)を教員5名と技術職員2名で実施した。バックヤードを案内する「裏側めぐり」(10:40~11:10、定員10名)と展示水槽を案内する「水槽めぐり」(11:15~12:00、定員20名)の二本立てで行い、計259人が参加した。8月2日と17日には、紀伊民報に本件の広告を出した。
- 7月22日 大阪府立豊中高等学校一行(生徒8名・教諭2名)を、バックヤードに案内、解説した。
- 7月30日 きしわだ自然資料館友の会磯観察会一行(32名)を案内した。
- 8月 4日 白浜町地域ふれあいネットワーク実行委員会主催自然観察教室「海の生き物を見よう」一行(24名)を案内、解説した。
- 10月 8日 クラゲメーリングリストオフ会一行(10名)を案内、解説した。
- 12月21日 紀伊民報に冬休み特別イベント「解説ツアー」の広告を掲載した。
- 12月23日-1月9日 冬休み特別イベント「解説ツアー」を教員5名と技術職員2名とで実施した(1月1日-3日を除く。10:45~約1時間で表側も裏側も説明。定員10名)。

3. 機械・設備

- 1月 6日 ボイラーに強い振動音があり、整備した。また、第2水槽棟第3・4循環系統の濾過槽が溢出している原因を調査し、逆洗バルブの閉まりが不完全であることが判明した。

- 1月20日 ボイラーのフレームアイ・ノズル・電極の掃除、燃料ストレーナー切り替えなどの整備を行った（その後、2月20日、3月7日、22日、4月7日、12月1日にも同様に整備した）。冷水ポンプ（第4水槽棟）のタワミゴムを更新した。
- 2月 2日 電気室屋上防水シートが破損したため、予備シートで補修した。
- 2月 4日-8日 ブロワー（第2、4水槽棟に4基）のオイル交換・グリース補給・フィルター交換などの整備を行った。その後、5月14日、15日、8月3日、11月4日にも同様に整備した。
- 3月12日 海水取水井戸内にフクロノリが大量に流入したため、除去した。
- 4月 5日 ブロワー用モーター（第4水槽棟）1基を、ベアリング交換のために業者に修理依頼した。
- 4月12日 ボイラーと保温チラー（第4水槽棟）の運転を停止し、各循環システムの加温を終了した（水温上昇に伴う冬運転の停止）。
- 4月14日-23日 No.4循環ポンプ（第2水槽棟）に異音が発生したため、整備を行った。
- 4月25日-27日 南浜の取水導水管保護コンクリート打ち工事が業者によって行われた。前年8月30日に台風16号の波浪により一部剥離し、導水管が露出していたもの。さらに5月9日に補強工事が行われた。
- 4月26日 高架タンクの水位表示ランプを修繕した。
- 4月26日-28日 No.2ブロワー（第4水槽棟）を整備した。
- 5月16日-6月8日 第1水槽棟動力幹線の引き替え工事が、業者によって行われた。
- 5月18日 第1水槽棟一階裏通路天井の開放式給水盲管が破断し、海水が噴出した。このため、高架タンクから第1水槽棟への給水バルブを閉めた。分電盤および照明・コンセントに噴出した海水が浸入し、絶縁不良になったため対処した。翌日、業者が配管補修工事を行い23日に復旧した。
- 5月23日 ポスター掲示用に塩ビ板（200cm×100cm、厚さ5mm）7枚を、第2～第4水槽室の観覧通路壁面に固定した。
- 6月15日-21日 No.1揚水ポンプを分解・整備し、消耗部品を取り換えた。
- 6月22日 201～220号水槽で、2002年から補助照明としてミニバイクのヘッドライトを転用している（瀬戸臨海実験所年報 第16巻、p.8参照）が、ソケット部分が錆びて接触不良になるものも出てきた。そこで、ソケット部をゴムカバーで被覆するタイプのヘッドライト1基を旧タイプのものと交換してみた。その後、問題が生じないため、8月9日には2基、8月29日には6基を新型のものに更新した。
- 6月30日 No.3熱交換器（第4水槽棟）の漏水修理が、業者によって行われた。また7月7日には配管パイプの断熱処理が行われた。
- 7月14日 第2水槽棟地階濾過槽のコンクリート梁の一部が剥離・落下した。
- 7月19日-9月17日 チリングユニット（第1水槽棟）と冷却チラー（第4水槽棟）を夜間運転し、各循環系統の水温を26-28℃に維持した。
- 7月28日 No.3揚水ポンプの異音の原因を解消するため、コンクリートベース部を補修した。
- 8月 9日 第3・4水槽室のエアコンに異常表示が出たため対処した。No.1ブロワー（第2水槽棟）が、切り替え時に故障警報が出るため整備した（10日も）。
- 9月 2日 ボイラー用重油地下タンクの通気管空中部の取り換え工事が、業者によって行われた。
- 9月30日 No.2ブロワー（第2水槽棟）のVベルト2本を更新した。
- 10月13日・14日 冷温水ポンプ（第4水槽棟）を分解・整備した。

- 10月21日 地下重油タンクの漏洩検査が、業者によって行われ、通気管の埋設部分で腐食・漏洩していることが判明した。
- 10月29日 No.1ブロワー（第4水槽棟）のVベルト2本を更新した。
- 11月 1日・2日 ボイラーを分解・掃除した。
- 11月 7日・8日 重力式濾過槽（第1・2水槽棟地下室各循環系統、計10槽）を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。
- 11月 8日・9日 大型実験水槽（第3水槽棟作業室）への動力線引き込み工事が、業者によって行われた。西田宏記教授（大阪大学大学院理学研究科）の研究用マボヤを蓄養するための冷却装置（水温を8℃に維持させる）に対応させるため。また、11月21日には冷却装置を搬入・設置し、12月5日-7日には、給排水配管および電気工事を行った。
- 11月15日 第3水槽棟作業室に、第4循環系統（水量21.7t）に組み込んだ予備水槽2個（150ℓ、300ℓ）を設置・配管した。冬季に南方系無脊椎動物の受け入れ水槽とするため。
- 11月19日 ボイラーを運転し、第2水槽棟各循環系統および101号水槽を19-21℃に、また保温チラーを運転し、第3・4水槽棟各循環系統を19-21℃に維持した（翌春まで）。
- 12月13日 高圧受変電設備の定期点検を行った。点検中、停電（7:30-10:30）とし、自家発電装置で主要箇所へ送電した。
- 12月15日 ボイラー用地下重油タンクの通気管理設部分の取り換え工事が、業者によって行われた。
- 12月22日 ボイラーからの油漏れ箇所を修理・整備した。

4. 収集・飼育・展示

- 1月18日 マナマコの黒化型1個体（全長約15cm）を、真鍋 正さん（白浜町網不知・漁業）から受贈し、402号水槽（「藻場」）へ展示した。
- 1月19日 ヨソギ1個体（全長11cm）を、真鍋 學さん（白浜町）から受贈し、402号水槽へ展示した。網不知の岸壁付近で採集したもの。
- 2月 2日 ボラ稚魚（全長3cm）1000尾以上を、鴨居港内のタイドプールで採集し、229号水槽（「磯の生物」）と402号水槽（「藻場」）へ収容した。
- 2月 5日 ソラウミヘビ1個体（全長19.3cm、湿重17g）を、福田享史さん（白浜漁協組合職員）から受贈したが、8日に死亡した。漁協の生簀の中に紛れ込んでいたもの。
- 2月 6日 クロアナゴ1個体（全長約120cm・湿重3.1kg）を、田村茂さん（白浜町）から受贈した。湯崎漁港の水面に浮いていたところを手網で捕獲。
- 2月24日 オオブンブク1個体（前後長7.3cm）を、岩城弘司さん（白浜町網不知・漁業）から受贈した。田辺湾内でイセエビ刺網にかかったもの。
- 3月 2日 「幼魚育成いけす」（101号水槽内に吊した網生簀（間口3.6m・奥行き2m・高さ2.5m））の中で育ったシマアジ12尾・カスミアジ2尾（どれも全長40cm以上）を生簀から外へ出した。
- 3月 3日 メダイ（407号水槽）が擦過傷により著しく衰弱してきたために取り上げた（全長72.0cm・体長58.8cm・湿重4.6kg）。2002年5月26日に入館したもの（当時の全長17cm）。
- 3月 4日 フジタウミウシ・フサコケムシ・アカオビシマハゼを寒サ浦船着場桟橋から採集した。

- 3月 3日 サザナミヤッコ（全長約18cm）を、堀口日出治さん（白浜町）から受贈した。詳しい採集場所は不明であるが白浜町沿岸。入館時、凍死寸前で浮き気味だったため、3月6日に死亡した。
- 3月18日 オオモンハタ・クエ・アカハタの幼魚（全長15～22cm、どれも白浜沿岸産）計6尾を、予備水槽から408号水槽（「水族館で育った魚たち」）へ収容・展示した。
- 3月22日 メバル幼魚（全長約2cm）50尾を、江津良港内で採集した。また4月5日にも同所でメバル（全長2～3cm）20尾、アゴハゼ（全長2～3cm）10尾を採集し、402号水槽（「藻場」）へ収容・展示した。
- 4月 9日 ワモンダコ1個体（208号水槽）の死亡に伴い、水槽の水を抜いて大掃除を行った。さらに、砂利の間に大量に自然繁殖したニホンウミケムシを駆除するため、一晩淡水を張った。
- 4月18日 ナヌカザメ雌（全長102cm、407号水槽）が2個産卵した。3月15日に江津良港の漁師から購入したもので、田辺湾口でイセエビ刺網にかかったもの。7月15日には卵殻内で稚仔が動いているのが確認できた。その後、5月6日、25日に2個ずつ産卵したが、この雌は9月12日に死亡した。
- 4月25日 ミスガイ2個体を、真鍋英明さん（白浜町）から受贈した。
- 4月28日 ミズクラゲ5個体を田辺市内之浦岸壁付近で採集し、201号水槽のクラゲ用吊り水槽で展示した（7月29日まで）。
- 5月 4日 長期飼育のオニイソメ（204号水槽内のポケット水槽、推定全長120cm）が死亡した。2000年7月11日以来、飼育展示していたもの。予備として飼育していたオニイソメも予備水槽から脱走して行方不明となっていたため、5月9日に古賀浦の潮間帯から新しい個体（全長約110cm）を採集し、展示した。
- 5月10日 クエとヤイトハタとの交雑種と思われる幼魚（全長22cm・湿重140g、袋湾内で釣獲）を購入し、408号水槽に収容した。
- 5月11日-23日 白点病が第4水槽棟第2循環系統の魚類（とくにオニカサゴ）に認められたため、硫酸銅280gを4回投薬した。406号水槽には硫酸銅の影響を受ける軟骨魚類がいるために、この間は循環系統から切り離し開放式とした。
- 5月19日 新しく作り直したヤドカリ用吊り水槽（45cm×24cm×55cm、従来のは前面が透明塩ビ板だったものをガラスに改良）を、211号水槽へ設置し、2区画のうち片側にベニヒモイソギンチャク付きのソメンヤドカリ1個体を、もう片側にヤドカリイソギンチャク付きのケスジヤドカリ1個体を収容・展示した。
- 6月24日-8月8日 カゴカキダイ幼魚19尾（全長5-6.5cm）を、水槽内で自然繁殖する小型イソギンチャクの駆除者として第2水槽室の17個の水槽へ分配収容した。それまで一年間駆除者として働いたカゴカキダイ16尾（全長10-14.5cm）は水槽から取り出し、予備水槽へ移した。
- 7月3日-19日 白点病が第4水槽棟第2循環系統の魚類（とくにコクチフサカサゴ、クサフグ）に認められたため、硫酸銅280gを4回投薬した。406号水槽には硫酸銅の影響を受ける軟骨魚類がいるために、この間は循環系統から切り離し開放式とした。
- 7月 6日 サザエ幼貝（年齢0+）約300個体を、二酸化炭素による影響を調べる実験用として和歌山県水産試験場増養殖研究所（田辺市）から受贈した。
- 7月12日 最大級と思われるハナミノカサゴ（411-2号水槽）が死亡した（全長44cm・体長37cm・湿重1.1kg）。飼育年数は不明。

- 7月20日 ミヤコウミウシ1個体（全長10cm）を、島 和敏さん（白浜町網不知・漁業）より受贈した。
- 7月20日 ナヌカザメ雌（407号水槽、全長約90cm）が2個産卵した。この雌ザメは、2002年4月18日に網不知港漁師から購入したもの。雄1尾（全長約80cm、2001年2月27日入館）も同居中なので、この雄と交尾して産卵に至ったものと思われる。その後、年末までに2個ずつ7回産卵した。
- 8月10日 第4水槽棟第2系統の濾過槽2槽を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。
- 8月18日 ノコギリモク10個体（夏～秋に成長するタイプ。高さ約20cm）を、白浜町袋湾で採集し、402号水槽（「藻場」）に展示した。
- 8月23日 タコクラゲ17個体（傘径2-5cm、白浜町袋湾産）を、岡本昭生さん（白浜町袋・漁業）から受贈し、202号水槽にクラゲ用吊り水槽を設置して展示した（10月24日まで）。
- 9月 7日-16日 白点病が第4水槽棟第2循環系統の魚類（とくにハタタテダイ）に認められたため、硫酸銅280gを3度投薬した。406号水槽には硫酸銅の影響を受ける軟骨魚類がいるために、この間は循環系統から切り離し開放式とした。
- 9月19日 ウシエビ1個体（体長7cm）を、小浜光春さん（田辺市）から受贈した。磯間漁港のロープにとまっていたのを手網で採集したとのこと。
- 9月19日 最後のニシキエビ（頭胸甲長17.8cm、226号水槽）が死亡し、16年間続いていた本種の飼育展示が途絶えた。
- 9月19日-12月8日 カスミアジ・ギンガメアジ・キチヌ・クロダイなど12種132尾の幼魚とジャノガザミ1個体（白浜町安久川口・富田川口・高瀬川口・横浦湾・網不知湾・日置川町日置川口で釣獲）を、荒賀忠一さん（白浜町）から12回に及んで受贈した。
- 9月27日 「幼魚育成いけす」（3月2日の項参照）の中で育てていた魚類が、捕食されない十分な大きさに育ったため、生簀の外へ解放した。ついでに生簀を水槽から取り出し、ネットに付着したイソギンチャクを洗浄・駆除した。解放した魚類の内訳は、ギンガメアジ5尾（全長約40cm）、ロウニンアジ3尾（全長約45cm）、カスミアジ6尾（全長約40cm）。
- 10月 3日 エイの一種1尾（体盤長約30cm、日置沖水深約30mより釣獲）を購入し、406号水槽（「砂底 夜間に活動する魚」）にウシエイとして展示した。しかし同定に疑問があったことから、12月9日に死亡後、標本を中坊徹次教授（京都大学総合博物館館長）に送ったところ、青色斑のまったくないヤッコエイと判明した。また、死亡直前～死亡時、多くのヒルが眼や噴水口の周辺に寄生していた。これらは加藤哲哉博士（教務補佐員）によれば、*Branchellium*属（東アジアからは未記録属）の一種であることがわかった。
- 10月 4日 「幼魚育成いけす」（3月2日と9月27日の項参照）を、101号水槽に再設置し、404号水槽（「内湾・川口の魚」）で約1年間飼育展示してきたアジ類幼魚（ギンガメアジ9尾・カスミアジ2尾、イケカツオ1尾、全長23～28cm）を移して収容した。
- 10月 5日 401号水槽（「干潟」）を整備し、トビハゼコーナーには、田辺市内之浦干潟から採集したヤマトオサガニ21個体とユビナガホンヤドカリ22個体を追加収容した。またチゴガニコーナーには、それまで飼育していたチゴガニ33個体は干潟に放流し、新たに採集した甲幅3.0mm未満のチゴガニ100個体（雌雄の判別せず）を収容し、定期的に泥から掘り出して成長

調査をすることにした。

- 10月 6日 303号水槽で飼育展示していたアカウミガメ（年齢1+、甲長17.7cm）を、標識を付けて四双島南西沖から放流した。この仔ガメは前年8月29日に台風による高波により孵化直後に砂浜に打ち上げられて保護していたもの。
- 10月 8日 サザエ幼貝118個体を205号水槽（「軟体動物 ヒザラガイ綱・マキガイ綱」）に展示した。これらのサザエは、7月6日、実験用として和歌山県水産試験場増養殖研究所（田辺市）から受贈したものの余り。
- 10月18日 カンパチ20尾（全長約20cm、人工孵化魚）を、近畿大学水産研究所白浜実験場より購入し、101号水槽の「幼魚育成いけす」に収容した。しかし、肌虫病により12月12日までに全滅した。このため、12月21日に再度、20尾（全長30-35cm）を購入し、淡水浴で寄生虫のベネデニアを駆除後、再収用した。
- 10月20日 412号水槽（「スズキ目 フェダイ科・イサキ科・タイ科・フエフキダイ科」）の各魚が成長し、水槽がたいへん混み合ってきた印象を受けるため、間引きをした。内訳は、ホシフエダイ5尾（全長約45cm）・ヘダイ10尾（全長40～45cm）・クロダイ10尾（全長40～45cm）を北浜から放流。
- 10月21日 403号水槽（「岩礁 黒潮の豊かな生物」）で展示動物の入れ替え作業（おもに0歳魚に更新）を行い、並行して底砂の洗浄など大掃除を行った。
- 11月 7日-23日 ウーディニウム病が第4水槽棟第2循環系統の魚類に認められたため、硫酸銅280gを5度投薬した。406号水槽には硫酸銅の影響を受ける軟骨魚類がいるために、この間は循環系統から切り離し開放式とした。
- 10月22日 ニセゴイシウツボ1尾（全長85cm）・トラウツボ1尾（全長60cm）・ワカウツボ3尾（全長50-60cm）を、百合 朗さん（白浜町）から受贈した。白浜町湯崎大島周辺のウツボ籠にかかったもの。
- 11月26日-12月28日 101号水槽と404・405号水槽に発生していた肌虫病のベネデニアを駆除するため、経口薬（ハダクリーン）を初めて購入し、餌料に展着剤とともに混ぜて投与したが、明らかな効果が認められた。
- 12月 10日 ユカタハタ・ナンヨウツバメウオ・アカモンガラなど、6種6尾のサンゴ礁魚類幼魚を、梅原 弘さん（大阪府池田市）から受贈した。
- 12月 10日 コクテンカタギ1尾（全長13.5cm、当館初記録種）を購入した。椿沖水深70mから釣獲。

5. 生物観察メモ（水槽・野外）

- 1月 5日 チゴガニ2個体（402号水槽に雄約30個体収容）が、本年になって初めてウェイピングしているのが見られた（15：30）。その後、ウェイピング個体数は日を追って増加し、1月14日には5個体、2月26日には25個体観察された。
- 1月13日 アンボイナ（殻長10cm、303号水槽、2004年4月26日入館）が、アジ肉の塊を吐き出していた。前日にマアジの切り身を4切れも丸飲みをしていた。
- 2月 7日 開放式予備水槽に収容していたモンハナシャコ2個体が、低水温のため横倒しになった（水族館の開放式給水の水温が、2月4日～7日に12℃台を記録）。また、キリンミノ1個体（全長15cm）を鮮魚商から購入したが、白浜町網不知の岸壁付近を凍死寸前の状態で漂っていたところを手網ですくったとのこと。

- 2月22日 オナガウツボの死亡個体（全長約2m）が白浜町江津良浜に打ち上がっていた。
- 3月 7日 アメフラシの小型個体（全長約3cm）が、瀬戸港内の岸壁近く（水深約1m）で、外套膜を翼のように広げ、頭部を伸ばした姿勢で浮遊しているのを目撃した（手網で採集して初めて、アメフラシであることがわかった）。この行動がアメフラシの小型個体に一般的なものかどうか不明。
- 4月18日 201号水槽（イシサンゴ類・キッカイソギンチャクなどの大型イソギンチャクを展示）の底砂に自然繁殖している管棲多毛類は、加藤哲哉博士（教務補佐員）の同定により *Phyllochaetopterus* 属の一種（ツバサゴカイ科）であることが判明した。
- 5月30日 マゴイ多数の産卵行動を目撃した。場所は、富田川富田橋下の波消しブロックの流心側で、ブロックの隙間に生えたカワヤナギの根に産卵。
- 6月22日 アカウミガメ1個体の這い跡が南浜にあったが、産卵せずに海にもどった模様。
- 6月24日 アカウミガメの死亡個体（雌、甲長74cm）が白良浜に漂着した。
- 6月28日 ミョウガガイ（ゆでられた数個体、石付き）を、森山松見さん（白浜町）より受贈し、大和茂之助手が保管した。日置川町大崎の磯でカメノテと共に採取したとのこと。番所崎周辺での生息記録はない。
- 6月30日-12月29日 ロウニンアジ(101号水槽、雄8個体・雌4個体、全長約70-100cm)が、少なくとも7回産卵した。体色が黒っぽく変色した雄と思われる3~8個体が、体色の変化のない、やや小ぶりの雌と思われる1~3個体を追尾する行動が頻繁に見られ、細かい粒子による海水の白濁が半日から一日続いた。
- 7月1日-10月18日 シチセンスズメダイの同一ペア(雄：全長17cm・雌：全長18cm、410-2・3号水槽)の産卵が、一昨年と昨年に引き続き水槽壁(エポキシ樹脂塗装)のほぼ同じ場所で繰り返し行われた。この間に9回の産卵が行われ、初回(7月1日)が、産卵初日に卵保護を放棄したが、その後は3~5日間(平均4.3日)の雄による卵保護が見られた。ただし、この日数は、昨年(平均5.5日)や一昨年(5~8日)よりも短く、すべて孵化まで至ったかどうか不明。
- 7月 3日 ニセクロナマコ6個体(403号水槽、水量24.4m³)の放精が12:30頃見られ、一時水槽全体が白く濁った。
- 7月14日 円月島西側の入り江で潜水採集を行ったが、昨年見られた大きな群体に成長していたクシハダミドリイシなどのミドリイシ類はほぼ死滅し、崩壊していた。冬季の低水温が影響したと思われる。ただし、その他の塊状サンゴの多くは生存していた。
- 7月16日-10月15日 ロクセンスズメダイ(合計9尾、410-2・3号水槽)の産卵が、水槽壁(エポキシ樹脂塗装)の1~3箇所で行われた。この間に少なくとも12回の産卵が確認された。うち卵保護の経過を追跡できた6例の平均卵保護日数は5.2日だった。
- 7月25日 台風7号による高波にもかかわらず、アカウミガメが南浜グラスポート乗り場付近に上陸したが、産卵せずに海にもどった(17:30~18:00)。
- 8月13日 クロメ4個体(402号水槽「藻場」)を石に縛り付けて展示していたが、仮根がでてきて活着しているのを確認した。さらにヤギの一種(225号水槽「刺胞動物」)でも、群体の根元が岩に活着していた。
- 11月6日 206号水槽(「軟体動物 マキガイ綱」)で、ヒメイトマキボラ1個体がカコボラ1個体を襲い、殻口から吻を挿入して軟体部を食べてしまった。

- 11月14日 アオウミガメの死亡個体（甲長109cm）が、島島西岸に漂着した。
- 11月27日 シワホラダマシ5個体（228-5号水槽、流水式）の貝殻上でカイウミヒドラ群体のポリプが、さまざまな程度に出芽・成長しているを確認した。（9月16日時点では、貝殻がそのまま見えている状態になっていた）。2群体は、ポリプの長さが5mm以上に、2群体は2mm程度に、あと1群体はまだほとんど伸びていなかった。
- 12月 2日 マナマコ2個体（402号水槽「藻場」、流水式）の行動が、水温の下降に伴い活発になってきた。夏～秋季はほとんど動かず、夏眠していた。この日の水温は19.9℃。

6. その他

- 2月 1日 第2水槽棟陸屋根の防水シートが強風によりめくれ上がってちぎれ、破片が水族館周辺に飛散した（3月14日にも同様の事態が生じた）。4月8日-18日、修繕工事が業者によって行われた。
- 2月 8日 鬼工房（展示業者）2名が来館した。水槽の岩組みなどの情報交換をし、館内を案内した。
- 2月15日 田名瀬英朋助手が、日本動物園水族館協会・第33回飼育技師資格認定試験（会場：アドベンチャーワールド）に試験官として立ち会った。
- 2月23日・24日 太田 満技術職員が、京都大学技術職員研修（専門研修）（物質・材料系および生物・生体系）に参加した。
- 3月 3日 田名瀬英朋助手が、日本動物園水族館協会近畿地区園館長会議に出席した。
- 3月31日 田名瀬英朋助手（水族館担当教員）が定年退職した。
- 4月 1日 田名瀬英朋元助手が、派遣社員として一年間水族館業務を行うことになった（勤務時間：8：30～15：30）。
- 5月 9日 水族館の公式ウェブページを公開した。
- 5月16日 太田 満技術職員が、日本動物園水族館協会から有功賞を受賞した。
- 6月 4日 水族館開設75周年を記念して無料開放日とした。入場者数は655人（大人426人、小人229人）。
- 6月14日・15日 日本動物園水族館協会近畿ブロック第71回飼育係研修会を、12園館22名が参加して開催した。14日は、午後から技術研究発表（7題）と懇親会（「かんぼの宿白浜」）を、15日は、午前中に施設見学を行った。技術研究発表では、太田 満技術職員が「京都大学白浜水族館における飼育・展示の工夫」、山本泰司技術職員が「チゴガニの飼育展示」というテーマで発表した。
- 7月23日 408号水槽（水量11m³）上部から漏水し、観覧通路に浸水した。排水口のネットをサザナミフグが食い破り、吸い込まれてバルブに詰まったのが原因。
- 9月 4日 円月島の北側壁が一部崩落しているのを確認し、白浜町役場に連絡した。
- 9月 5日-7日 台風14号による波浪警報が出され、県道が通行制限になった。
- 9月 7日 台風14号による集中豪雨で排水溝から逆流した雨水が、第2水槽棟地階濾過槽に流入した。さらに濾過槽上部より溢れ出して、連通管ピットに1.2mの深さまで溜まったため、水中ポンプによる排水作業を行った。
- 9月 9日 西田宏記教授（大阪大学理学研究科）研究用のマボヤを翌年も蓄養するための水槽設備の打ち合わせを、西田教授・冷却器業者・運搬業者と共

- に第3水槽室作業室で行った。
- 9月 9日-11日 第1水槽棟屋上防水シートの補修工事が、業者によって行われた（保証期間内のため無償）。
- 9月29日-11月8日 第4水槽棟水槽壁上部の亀裂6箇所に、モルタルを流し込む応急処置を行った。
- 10月12日-13日 第2水槽棟濾過槽室の梁のクラック補修が、業者によって行われた。
- 10月18日 226号水槽（八面ガラス水槽、水量43.2m³）の北東側支柱とガラスの境目から漏水した。また11月29日には、224号水槽エプロン側亀裂部より漏水した。いずれもまもなく止った。
- 10月25日・26日 名古屋港水族館（飼育部3名）による採集動物の一時保存のため、第3水槽棟作業室の水槽設備を一部提供した。
- 12月18日 水族館設立75周年記念表彰が、京都大学百周年時計台記念館で第2回時計台対話集会「森と川と海の対話-安心・安全な社会を求めて」（京都大学フィールド科学教育研究センター主催）の最後に行われた。表彰者は、水族館の収集活動に長年にわたり多大な協力をいただいた白浜漁業協同組合、南部町漁業協同組合と岡本昭生さん（白浜町漁業）の2団体・1個人。